



Akai\*FuruyaR10  
Gatekeeper No. 11





降谷くん

あつ



赤井!



一緒に行つて  
いいか?

何故なら――

こいつに  
近づいたら  
やばいんだ

早く  
逃げなれば

ええ  
ええまあ

休憩所  
に行くか

やばい





降谷くん  
今日も君は  
可愛いな……

ほんっ

かわいいな……  
かわいいな……

ぞくぞくっ



降谷くん!?



赤井の周りにある  
ハートに当たると

何故か赤井の考えて  
いることが分かるように  
なってしまったからだ――



赤井からしか  
発せられない  
このハートは

降谷くん

はっ

はっ

何故か僕に対してだけ  
発生するらしい

かわいい

かわいい

——思い当たる  
原因はひとつだけ  
しかない

そう

あれは  
組織掃討作戦の時



バーボン

くそ……っ

組織の施設で  
ジンに追い  
詰められた僕を

は、  
避けられない……!

降谷くん!





身体を張って  
赤井が庇ったのだ

あ

赤井

何で  
庇って…

その時だった



よかった…

降谷くん…  
君が無事で本当に  
よかった…

赤井の心の声を聴いたのは

救うことが出来て  
本当に良かった…

それからというもの

あ、あのハートに当たる度に  
赤井の心の声らしきものが  
聞こえるようになったのだ  
しまったのだ

ぜ











思ったより  
高くないな…

ああでも

——これが降谷くんの  
体温か



温かいな

このまま  
抱きしめたら  
駄目だろうから

もっと彼の体温を  
感じていたい



そう

出来ることなら  
素肌同士で――

出来ることなら  
素肌同士で――

大丈夫  
ですからっ！



すまない  
つい兄弟に  
していたみたい  
な事を  
してしまっ  
た

いやどう考えても  
兄弟にするような事  
じゃなかったぞお前!!

つーか  
こんな真ツ昼間から  
なんてこと  
考えてんだよ……っ

こ…これ以上  
こいつに近づいたら  
食われる気がする……!!

それから  
というもの

ジロウ

タタッ  
ギョッ

極力…

キョッ  
キョッ

極力赤井と  
出会わないように  
必死になった

ゼーハー

ゼーハー



〜やってられるか！

なんなんだ  
あいつは！

行く先々で  
現れやがって！

ストーカーかつ！

しかも毎度毎度  
ハートを飛び  
散らかせやがって！

避ける  
こっちの身にも  
なってみろ！

ストン

やっぱり  
赤井は  
僕のこと

好き…  
なんだろうか



もっと彼の  
体温を感じたい

出来れば  
素肌同士で

いぢいぢいぢ

恐ろしすぎる  
だろそんなこと!!

よし……!

とにかく  
近づかない  
ようにしよう  
そうしよう

て”。







しかし  
その次の日も

そのまた  
次の日も

赤井が  
近づいてくる  
ことはなかった

もしかして  
逆に避けられ  
てる…？

まあいいけど…

……ん？

誰も気づいて  
いない…

やっぱり  
赤井の…！

これはまさか  
赤井の…？！



……

最近俺を  
避けるようになった  
赤井の気持ち

これに触れれば  
分かるんだろうか



くそ……っ！  
こんなに落ちてたら  
気になるだろ……！

えーい  
なるように  
なれだ！

降谷くん  
嫌われたんだろうか……





最近ずっと  
避けられていた

何かまずいことを  
したんだろうか

…いや

元々俺は  
彼に嫌われていた

今更仲良くなんて  
無理だったんだな

一緒に食事を  
したり

酒を飲み交わして  
みたかった

彼の料理は  
美味いらしいから  
それも食べてみたかった

けど  
きつとそれは  
叶わないんだろうな

ならせめて  
これ以上  
嫌われないように  
遠くから見たいよう

…ああ、

降谷くん





君のことがすきだ

あ…

きみのことがすきだ



どうしよう

好奇心で聞いて  
いいものじゃなかった

トロン

これが本当に  
赤井の本心  
だったらどうしよう

それに

トロン

これが  
赤井の本心  
だったとして

トロン

僕はどうすれば  
いいんだろう

赤井…

どうしたんだ  
そんなところで

降谷くん？

あ









おおあぁ

ほんとうか!?



食事?

俺と?



きよ  
今日  
暇なら

その

食事でも  
どうかと  
思っ



違う

そんなに  
喜ばないでくれ



たのしみだ

うれしい!

降谷くんが  
誘ってくれるなんて



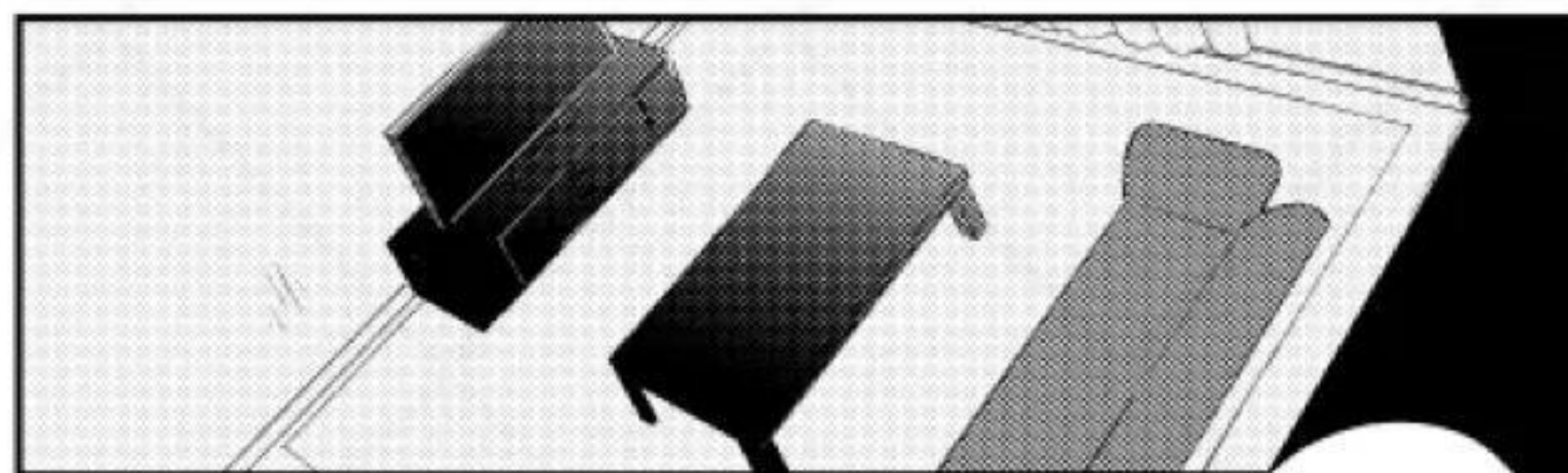
え

ええ





これはあの時  
助けたことと  
お前の心を覗き見た  
贖罪なんだから……



まさか  
自宅に招いて  
くれるとは思わ  
なかったよ

職業上外食は  
控えてるので



……！  
凄いな



君の料理は美味い  
聞いてみたいから  
食べてたんだと思  
ってます



うまいー！

うまいよ  
降谷くん

これは現実  
なのか？

こんな時間  
絶対に訪れないと  
思ってたのに









その人を  
見るだけで  
心が満たされるし

声が  
聴けるだけで  
嬉しくなれる

赤井秀一

傍にいられる時は  
天にも昇るような  
気持ちにさせて  
くれるんだ

お前  
なんて顔してるんだ

こいつの言う  
好きな奴が僕？

そんなわけ  
ないだろ

だって俺は…

降谷くん

ヒッ  
ワッ  
ッ



君

本当は  
気付いてるんじゃないか？

え

俺が誰を  
好きなのか

あ

あ

うそ



# 赤井とキスしてる



すきだ

すきだ

あたまが、



すきだ

おかしくなりそうだ



すきだ

赤井の声が  
全身に広がって

身体が熱くて

でもなぜか  
心地よくて

もしかして  
僕

赤井の事

降谷くん

フム

え

フム

まっ

待って  
くださいっ

ハッ

フ

ふん



嫌か？

嫌ですよ

だって僕

男ですよ

そんなの  
知ってる

だが  
君だって男なら  
分かるだろう

惚れてると  
分かっていると  
相手を家に入れたら  
どうなるかくらい

だってこれは  
お前が……

お前に助けられた  
借りを返したくて

借り、か

なら



一回抱かれてくれ

あ

やっ

うそ

うそっ

はいっちゃん

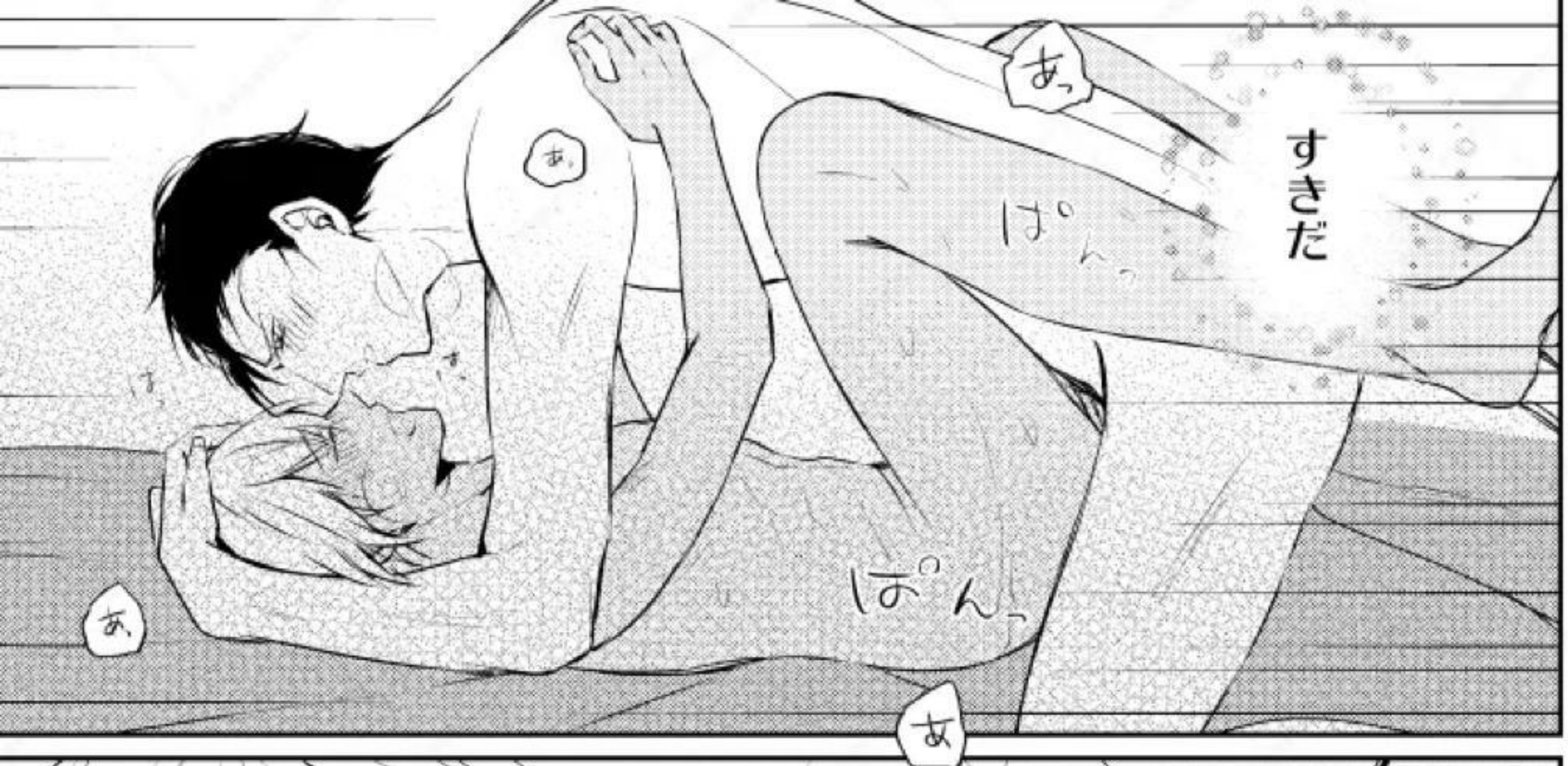
ああ

入っちゃんな

や

あ

















…すき

そう

好きだな？

しゅっ

はっ

あ

あ

うんっ

あゝ

すき

しゅっ

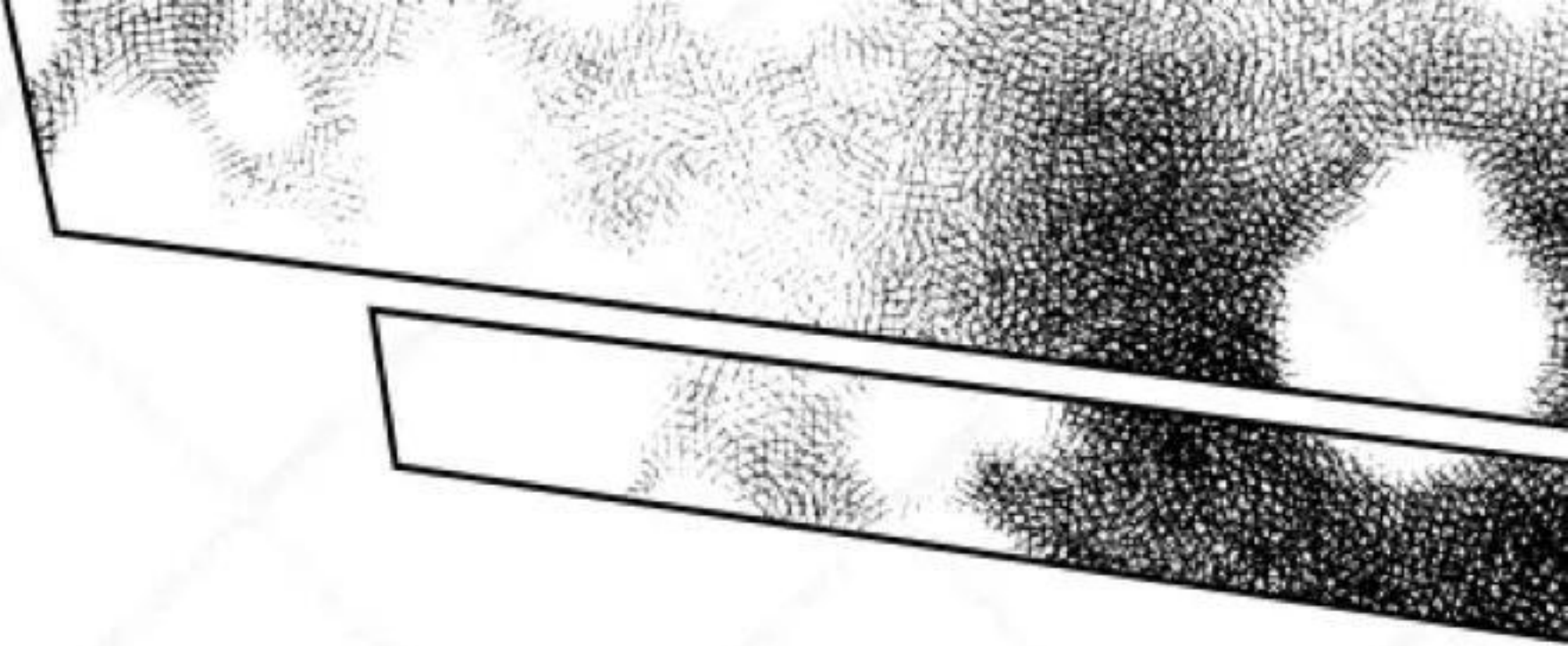
すき

しゅっ

あゝ  
あゝ

しゅっ









君

俺の心の声  
聞いてただろう

なっ

何で…っ

何でって

っ

くっ



俺も  
聞こえて  
たからな

君の声



は？



恐らく  
組織の薬の  
影響だろうな

志保に調べて  
もらったか

両想いになつたら効果は  
消えるらしいが  
本当だったな

おっ

というわけで

おっ





これから  
よろしくな

零くん



っおれは！

お前の事なんか  
好きじゃないっつ

ふ





(降谷くん…今日も君はかわいいな…)  
組織掃討作戦が終わった後から突然赤井の心の声なるものが聞こえるようになった降谷。  
赤井の甘い声に悪寒が止まらず、なるべく接触しないよう逃げ回っていた降谷だが、  
赤井の様子が変わっていった…

Fan book No.11 20170910 out

HearHearHeard

当時の後書きを確認していてびっくりしたのですが、この本が赤安本を描き始めて  
丁度一年後の本だったようです。  
赤安の二人が両片思いの時に相手の事を語るっていうシチュエーションが凄く好きで、  
語ってる相手の顔を見て、あ、その人のこと本当に好きなんだ…って知っちゃうのが  
もうめっちゃくちゃ好きで、この本では赤井さんのシーンなんですけど、楽しかったです。  
あと赤井さんが確信的に好きだろう？好きだな？って聞きまくって最終的に  
零くんの口から好きって言わせるのも大好きなのでめっちゃ詰め込んだ本でした。